

共通開講科目(アオッサ) 学問の入り口／福井大学

科目名/提供大学名	学問の入り口／福井大学
科目名(英文)	Formulating Questions for Academic Study
対象学年	原則として、全学年
開講時期	後期・水曜5限目
単位数	2単位
科目区分	選択(教養教育科目群:「人間理解・言語コミュニケーション分野」)
授業形態・開講形態	講義
担当教員名	末本 哲雄
オフィスアワー	講義時間の前後、またはメールにて質問を受け付けます。
教員メールアドレス	suemoto@u-fukui.ac.jp
概要	学習者として大学での「学びの質」を向上させるため、思考の始まりである「問い」についての力量を高めます。具体的には ①問いづくり、②短編小説・歌詞を使った文学的探求、③紙工作を通じた科学的探求を行います。
学習・教育目標との関連	各大学の目標との関連は、科目の提供大学側では書けないと思われれます。
授業目標・目的	思考を促す「問い」を自ら作り、自分自身で学びを深めていくためのコツをつかむことがこの授業の目標です。併せて、探求活動の基礎となる仮説検証、および他者と協力的な学習を実践する機会と位置づけています。
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)	<input type="checkbox"/> 自他の理解能力 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> 情報収集・探索能力 <input type="checkbox"/> 社会・職業理解能力 <input checked="" type="checkbox"/> 役割把握・認識能力 <input type="checkbox"/> 計画実行能力 <input checked="" type="checkbox"/> 選択能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題解決能力
学生の目標・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○文学作品として歌詞を1つ選び、そこに描かれる物語を深く理解するための問いを立て、検討事項を構造化し、筋道の通った推理を行い、結論を導くことができる ○輪ゴムカーの紙工作を題材に、技術者を模した研究開発の営み(要求の確認、対象のモデル化、情報の収集、問いの発見、仮説の立案と検証、成果の報告)を実践することができる ○上2つの探求活動で用いた思考様式(見方・考え方)の類似点と相違点について(関与せずとも言えそうな一般論を超えるレベルで)自身のエピソードを示しながら具体的に論述することができる ○アイデアの提供や配慮のある働きかけを通し、グループの知識創造に貢献するふるまいを継続的に示すことができる
授業計画・授業内容	<p>ガイダンス</p> <p>01. [講義] 授業の概要を聞き、不明な点を確認する。事前調査</p> <p>第1部 問いづくりと学びの方向</p> <p>02. [活動] QFT(Question Formulation Technique)を体験する 03. [活動] QFTの続きを体験する。気づきを他の学生と共有する 04. [講義] 熟達者の特徴を学ぶ</p> <p>第2部 文学の探求～短い物語を題材に～</p> <p>05. [議論] 牛鍋①: 問いをつくる。グループ内で問いを共有する 06. [議論] 牛鍋②: 答えを共有する。指定課題について検討する 07. [議論] 牛鍋③: 各自の見解を発表し、論点の違いを整理する 08. [説明] 今回の考察レポートの進め方を知る。歌詞を選定する 09. [議論] J-POPの歌詞考察①: 問いと検討結果を口頭発表する 10. [添削] J-POPの歌詞考察②: 考察レポートを相互に添削する</p> <p>第3部 科学の探求～輪ゴムカー製作を題材に～</p> <p>11. [議論] QFTで輪ゴムカーについての問いを作る 12. [製作] グループの方針を決め、製作を始める 13. [製作] 製作を続ける(ただし、きつと完成には至らない) 14. [測定] 完成品を持参し、性能を測定する</p> <p>まとめ</p> <p>15. [議論] 授業全体を振り返り、学びを確認する。授業評価</p>
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ○教員が一方向的に話すだけにならないように、学生が意見を述べる機会を頻繁に設けます ○学生同士で問いや答えを吟味したり、議論を通じて新しい知識を創造したりする時間が多くあります
キーワード	問い、探求活動、仮説検証、知識創造、メタ認知
教科書	教材は教室で配布します。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・橋本陽介(2019)「使える!『国語』の考え方」ちくま新書 ・阿倍 昇(2015)「国語力をつける物語・小説の『読み』の授業」明治図書 ・畑村洋太郎(2016)「考える力をつける本」講談社+α新書
評価方法・評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ○歌詞考察レポート(A4紙3.5ページ以上)・・・25% ○科学に関するレポート2種(国語の文章題型の問答)・・・計15% ○製作過程の報告(輪ゴムカーを写真撮影して提出)・・・最大10% ○製品仕様書(完成品の設計図や性能:A4紙2-3ページ)・・・5% ○授業への貢献(各回のコメント用紙の記述、議論への関与、宿題提出による学習素材の提供とその内容、など)・・・25% ○授業全体の振り返りレポート(A4紙2ページ以上)・・・20%
関連科目	特になし
履修の要件	授業用Webサイトとeメールを使用するため、インターネットの利用環境が必須です。
必要な事前・事後学習	<p>当たり前のように、毎週およそ2-4時間を想定した宿題を課します。</p> <p>宿題を材料に教室で議論をするため、授業の成立に不可欠です。</p> <p>各回の宿題の内容は実際のシラバスで確認できます(下記参照)。</p>
その他・注意事項	紙面の制約により、ここ(上)での記載はかなり省略した授業情報にとどまります。実際のシラバスをWebサイト(https://www.gakumon.link/)に掲載していますので、その内容を確認した上で受講を判断して下さい。本授業は「AOSSA」で開講します。